

共同生活援助（日中サービス型）の評価の報告について

1. 日中サービス支援型共同生活援助の趣旨

日中サービス支援型共同生活援助は、障害者の重度化・高齢化に対応するために創設された共同生活援助の新たな類型。短期入所を併設し地域で生活する障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供することとしており、施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待される。

2. 日中サービス支援型共同生活援助の特徴

・常時の支援体制の確保

日中サービス支援型共同生活援助においては、共同生活住居ごとに、昼夜を通じて1人以上の世話人又は生活支援員を配置する。

・指定短期入所の併設

日中サービス支援型共同生活援助の入居定員のほか、地域で生活する障害者の緊急一時的な支援に応じるため、指定短期入所（空床型を除く）を行う。

なお、指定短期入所は、原則として当該日中サービス支援型共同生活援助と併設又は同一敷地内において行うものとする。

・地方公共団体が設置する協議会等への報告・評価

日中サービス支援型共同生活援助は、地域に開かれたサービスとすることにより、当該サービスの質の確保を図る観点から、地方公共団体が設置する協議会等（※）に対し、定期的に（年1回以上）事業の実施状況等を報告し、協議会等から評価を受けるとともに、当該協議会等から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

※法第 89 条の3第1項に規定する協議会又はその他の都道府県知事がこれに準ずるものとして特に認めるもの（都道府県又は市町村職員、障害福祉サービス事業所、医療関係者、相談支援事業所等が参加して障害者の地域生活等の検討を行う会議等）

3. 評価の方法

障がい者相談支援センター（基幹相談支援センター）に評価をお願いし、今年度評価対象となった3事業所の評価を行いましたので報告します。

報告・評価シート

資料1-2
 令和5年(2023年)1月30日
 障がい者自立支援協議会

【報告日 令和4年10月13日】

【評価日 令和4年12月2日】

事業所名 城南学園グループホーム事業所

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業(当該GH以外)	事業所名称、所在地、サービス種類 ・社会福祉法人 慶信会 ・熊本県熊本市南区城南町藤山1276番地2 ・施設入所、生活介護、短期入所、共同生活援助、相談支援、居宅介護、同行援護 行動援護、重度訪問介護、放課後等デイサービス、児童発達支援、就労継続支援B型 就労移行支援、自立訓練(生活訓練)
事業所 基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. グループホームじょうなん(住所:熊本市南区城南町塚原717番地3)定員 7人 2. グループホームじょうなん二番館(住所:熊本市南区城南町塚原717番地4)定員 5人
	短期入所を実施する住居	住居名 グループホームじょうなん (1床) 併設型・ <u>単独型</u> 計 1床
	主たる対象者	身体障害者・ <u>知的障害者</u> ・精神障害者・難病患者・特定なし
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6:1人、区分5:6人、区分4:5人 区分3: 人、区分2: 人、区分1以下: 人
	利用者の年齢	60歳以上:3人、50歳代:4人、40歳代:4人、 30歳代:1人、10歳・20歳代: 人
	利用者の状況	利用者: 12人 住居内で日中を過ごす利用者: 0人 他の日中活動サービス利用者: 12人

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
	1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	グループホームを利用されている方々の中で、高齢になられている方も増えてきており、今後重度・高齢化により日中活動サービス等の利用ができなくなる可能性が予測されるため、高齢による心身機能の低下、重度の障害があっても地域の生活に生きがいを持って暮らしていただきたいという思いから申請に至った。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も日中をグループホームで過ごす利用者の方の人数は0人と報告が上がっているが、今後日中をGHで過ごす利用者がでた場合、柔軟にその対応ができるのか。特に60代の利用者が3名いるため、介護保険移行のタイミング等の中で併せてそれらの検討を同時並行的に行えると良いのかと思う。 →介護保険移行後も現状と変わらない生活ができるよう、(特に費用面等)検討を行っている。 ・完全に日中をGHで過ごす利用者は現時点で0人とのことだが、週に数回など日中をGHで過ごす利用者はいるか。 →週に2,3回通所を利用して、それ以外はGHで過ごしている利用者もいる。 ・利用者の高齢化に伴い、成年後見の対象となる利用者はいるか。もし例があればその際の流れを聞きたい。 →昨年1人対象者がいたため、手続きを地域の司法書士に依頼した。 ・今後、対象となる利用者が出てくる可能性もあるため、昨年の例をもとにフローなどを事業所内で共有していくと良いと思う。
	2	支援の基本方針	利用者が清潔で快適な環境で一人ひとりが主体的に安心して楽しく暮らせるように支援する。	
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	日修活動との差別化を図るため、生活に沿った内容の支援を重視している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングや散歩等の健康面の支援 ・掃除や洗濯等の日常生活スキルの支援 ・食事や入浴、排せつ等のADLの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・第213条の8第2項の中にも家事等は共同で行えるよう努めるよう記載があるので、グループホームの中で過ごすといえ、自立支援に焦点をあてた支援内容を構成しているのは素晴らしいと思う。一方で基本は重度者を想定しており、本人にその能力や可能性があるかどうかの見極めも行う必要があるかと思う。
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) <ul style="list-style-type: none"> ・第二城南学園生活介護事業所 ・第二城南学園就労継続支援B型事業所 ・城南学園生活介護事業所じょうなんみなサポ ・支援センター銀河カレッジ ・デイサービスサンフラワー モニタリングや担当者会議等には積極的に参加し、他事業所との連絡に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・上述もしているように、65歳を迎える前段階から担当者会議等の中でより活発に65才以降は介護保険を利用すべきか、グループホーム内で過ごすべきかを検討できると良いと思う。 ・他のGH事業所と交流や情報交換の機会等はあるか。また、交流していた場合、どのようなやり取りをしているか。 →サビ管協議会のGHの集まり等に参加し、新型コロナウイルス感染症の対策方法や、介護保険移行者の状況についての情報交換等を行った。 ・日中の利用先に他法人の事業所の利用があるのは、様々な視点から利用者の状態を確認できるためとても良いと思う。今後も他法人の事業所等の利用機会があれば、積極的に活用していただいたい。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
運地 営域 に 開 か れ た	5	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか (地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) 地域の清掃活動には参加しているが、実習生やボランティアはコロナ禍のため積極的な受け入れは出来ていないのが現状である。 コロナ流行前は法人で大きな催しをしていたので、収束してきたらそちらも再開したいと考えている。	・感染症等の対応は特に気を使うところだと思うので、状況が許す範囲で対応を検討できると良いと思う。同法人の中で地域福祉に明るい部署も沢山抱えているので、受け入れができない場合は、地域の実情を情報共有する等の工夫でも良いのではないかと思います。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	6	障害福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応 (外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) ・園内研修や施設協会及び県社協主催等の園外研修、強度行動障害支援者養成研修、また、今年度から法人内で各種委員会を設置しており、その委員会活動への参加を重点的に行うようにしている。 ・支援マニュアル等を作成。 ・事業所会議や日々の引継ぎで情報の共有を図る。	・強度行動障害に関する支援は非常に対応が難しいと思う。職員の感情コントロールも大事なので、アンガーマネジメントに関する研修の受講や、利用者の権利擁護を図るといった観点からは虐待や身体拘束、意思決定支援に関する研修等を行うことも効果的かと思う。 →法人内での研修の開催や、戸山サンライズで行われた意思決定支援の研修に参加するなど、外部の研修にも積極的に参加している。アンガーマネジメントについても、県社協で行っている研修に積極的に参加を促していく。 ・短期入所に関する受け入れ体制や運営する際の困り感、基幹相談支援センターから後方支援等、教えてほしい。 →短期入所については、新型コロナウイルス感染症の影響や、強度の行動障害のある利用者の受入れが夜間は日中に比べてどうしても職員が手薄になるため困難であることなど、思うように受け入れが出来ず苦慮することがある。 ・法人で様々な研修を開催できるのは、規模の大きい法人の強みだと思う。特に、障害児・者とともに様々なサービスを行っているので、そこで得た知識や経験を今後も共有して欲しい。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
7	従業者の確保策（夜間も含めた人材の確保）・離職防止のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の働き方に寄り添った勤務体制作りを行っている。 ・ハラスメントに関する研修への参加、社会保険労務士による外部相談窓口を設置し、良い職場環境の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保はどこの事業所においても課題だと思う。各職員の負担が過剰にならないように配慮されていると思う。 ・人材確保における困り感や懸念事項、危機感について教えてほしい。 →感染症等で長期休みが発生した時の補填や、夜間に勤務が可能な職員の確保が難しいと感じている。やはり福祉人材の確保は難しいというのが現状で、実際に職員が長期休職や退職等で不在になった場合、人員に大きな余裕があるというわけではないので、確保が難しい時は同法人内で勤務が可能な職員を配置して対応することになると思う。 ・人材確保やコロナ禍の緊急時対応はGHに限らず、障害福祉の共通課題だと感じている。今後も、協議会等を活用して課題の整理等を行ってほしい。

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
つ 運 い 営 て ・ 支 援 に	8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保ための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識の習得に努める。(資格の取得や強度行動障害支援者養成研修等の研修への参加) ・事業所会議や日々の引継ぎで情報を共有し、意識の統一を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術に関する研修の確保や、可能な範囲で福祉用具の活用等を図ることによりまかなえることも多くあると思う。質の向上と併せてご検討頂けると良いと思う。 →今後、他職種からの人材のための新人教育研修等も含め、取り組んでいけたらと考えている。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	9	利用者の健康管理方法	日々の食事管理、1日2回の検温、月に1回の体血測定、かかりつけ医への定期通院、服薬管理、定期検診、日々の健康観察、健康状態の記録、健康管理に対する支援員間の情報共有を行う。	
	10	モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等)	相談支援事業所に併せてモニタリングを実施している。同一法人に相談支援事業所があるため、利用者についての理解が深く、モニタリング等での情報の連携が細やかにできている。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員が行うモニタリングは数カ月に1回なので、やはり本人の状況等、特に本人の意向や意思を的確に把握できているのはサービス提供事業所だと思う。是非身近な支援者だからこそできる利用者の状況等の把握に努めて頂き、相談支援専門員のモニタリング時にそれらの情報を提供して頂けると相談支援専門員も助かると思う。 ・同法人内で密に連携が取れているところはいいと思う。それと同時に、自分たちもだが、同法人の事業所を利用している利用者へ相談支援をする際は、利用者の中立公平性を保つため、聞き取りにかなり気を使っている。もし、利用者の意思や希望を聞く際に気を付けていることや工夫していることがあれば聞きたい。 →同法人だからこそ、気を付けて利用者の声を細かく聞いていく必要もあると感じた。今後、聞き取り方法の見直しも検討したい。
	11	その他運営の特色や工夫等	<p>(設備面での障害特性等への配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的で落ち着ける環境。 ・トイレ等はわかりやすくピクトグラムを掲示。 ・極力段差を減らしている。 <p>(運営面での特色等)</p> <p>一人ひとりが穏やかに地域で暮らせるように寄り添った支援を心掛けている。</p>	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12 災害等発生時の対応方法	災害対応マニュアルに応じて対応する。	・災害、感染症のマニュアルについて知りたい。特に災害時の対応については担当者会議の際等に話題にされているのか？ また、火災時等も含めた避難訓練等を行っているのか。 →災害対策委員会を本年度から発足しており、そこでマニュアルの細かい確認を行っている。まだそれほど経っていないため職員への周知は完全ではないものの、避難訓練や消防署による訓練を定期的に行うなどして周知に努めている。感染症についても対策委員会を発足しており、以前同法人で感染症が発生した際の経験をもとに対策マニュアルを作成している。 ・BCPの作成をしているか。 →各事業長や理事長等で構成された委員会を設置し、会議を行って作成している。
	13 感染症発生時の対応方法	・感染症対策委員会への報告・対応の検討 ・感染症対策マニュアルに応じて対応する。	
	14 地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	

報告・評価シート

資料 1 - 3
 令和5年(2023年)1月30日
 障がい者自立支援協議会

【報告日 2022年10月18日】

【評価日 2022年12月 8日】

事業所名 ソーシャルインクルーホーム熊本小島

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・ソーシャルインクルー株式会社 ・東京都品川区南大井6-25-3 いちご大森ビル2階 ・障がい者総合支援法における障がい福祉サービス（日中サービス支援型、介護サービス包括型GH）
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. ソーシャルインクルーホーム熊本小島1階（住所：熊本市西区小島8丁目9-6）定員10人 2. ソーシャルインクルーホーム熊本小島2階（住所：熊本市西区小島8丁目9-6）定員10人
	短期入所を実施する住居	住居名 短期入所熊本小島1階（1床） <u>併設型・単独型</u> 住居名 短期入所熊本小島2階（1床） <u>併設型・単独型</u> 計 2床
	主たる対象者	<u>身体障害者</u> ・ <u>知的障害者</u> ・ <u>精神障害者</u> ・ <u>難病患者</u> ・特定なし
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：4人、区分5：3人、区分4：9人 区分3：0人、区分2：0人、区分1以下：0人
	利用者の年齢	60歳以上：0人、50歳代：8人、40歳代：4人、 30歳代：4人、10歳・20歳代：0人
	利用者の状況	利用者：16人 住居内で日中を過ごす利用者：6人 他の日中活動サービス利用者：10人

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】	
		具体的な内容	要望, 助言, 評価	
	1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	住まいで困っている障がい者が『0』の社会を創るといいう理念があります。 障がい者の方がサポートを受けながら自立して暮らすことができる住まいの場は圧倒的に不足していること、また障がい者の方向けのグループホームの供給率は足りておらず、住み慣れた地域を離れざるを得ない障がい者の方々が数多くいること、その課題を解決すべく申請に至りました。	○入所施設など地域の受け皿の不足などの地域課題はあるなかで、住み慣れた地域での生活を継続できるように理念を掲げられている。 ○元々地元の人は何人ぐらいいるか。 →市外の方は3名でそれ以外は市内の方
	2	支援の基本方針	自立を目指せる環境を創る。 自立を目指せる支援を提供する。	○事業所の考える自立とは何か。 →重度の障がいを持っていても、出来ることを維持・継続していく。 ○実際の支援の提供状況はどうか。 →家族や相談員と連携を取りながら行っている。
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	各相談員が作成した目標や計画に沿ってグループホームのサービス管理責任者が利用者に向けた支援方法を計画する。 その計画に沿って職員は支援を提供している。 外部利用されていない方については買い物や散歩、趣味を兼ねた手作業などを支援している。	○個別的な支援をしているか、グループでの支援を提供しているか。 →障がい種別やそれぞれのADLも見ながら、それに応じて支援内容を分けている。 ○具体的にどういった支援を行っているか。 →決まった生活リズムに沿って生活することが目標の方は、細かく声掛けや促しをしたり、指先を動かしていないと落ち着かない方については、折り紙やオセロなどを行ったりなど、個別に対応した支援を行っている。 ○利用者に対して職員は何人いるか。 →利用者2~3名に対して職員1人の配置、夜間は職員2名の配置で支援を行っている。
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) 利用者やご家族の意向に合わせて、生活介護や就労支援などの事業者と連携を図る。	○生活介護や就労支援とはどのような時に連携しているか。 →本人の体調や状況をこまめに伝達している。 ○サービス提供事業所のみならず、相談支援専門員との連携を取り、サービス調整などを行っているか。 →利用者について、近況を都度報告し、課題の解決に向けて話し合いを行っている。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
運地 営域 に 開 か れ た	5 地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	(地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) コロナウイルス感染症が収束すれば、地域の催し物や地域の活動に積極的に参加する。 現状では通院や買い物同行時などに近隣住民との挨拶を行っている。	○今後、実習生やボランティアの受け入れを行う予定はあるか。 →現時点では職員の人員に余裕がないため、受け入れて指導をすることが難しいが、今後、そういった要望があれば受入れを検討していく。 ○地域への活動以外に啓発や理解してもらうための取り組みがあれば知りたい。また、その結果、地域に理解してもらっているか。 →指定後1年未満で新型コロナウイルス感染症の関係もあり、地域の催しには思うように参加できていないのが現状。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	6 障害福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応	(外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) 虐待防止、食中毒感染症、避難訓練、緊急対応、障がい特性について事業所内研修を行っている。 社内で資格取得制度を設けている。	○虐待や感染症、災害緊急時の対応など事業所で研修されている。行動障害のある方の住まいの場など受け皿が不足しているという課題もあり、強度行動障害の研修受講など積極的に受け専門性を高めて欲しい。 →研修の参加については法人で取りまとめて行っており、受講を促している。 ○実際に今研修を受講した人はいるか →元々、修了者の職員もいるため、新規で終了した職員は1名程度だが、近々行われる研修には申し込みをしようと考えている。 ○強度行動障害の利用者の受入れはあるか →利用者のおよそ1/3が強度行動障害を持っている。 ○研修の頻度や研修の具体的な内容を知りたい。 →法人で研修資料を作成しており、それを使用しながら虐待防止や感染症、緊急時の対応についての研修を年に各2回ほど行っている。 ○看護師等の資格を持つ職員はいるか →世話人や生活支援員に看護師等の資格のある職員が複数いる。世話人等として配置しており、医療行為は行わないため医療依存度が高い利用者の受け入れは難しいが、看護師の知識を様々な場面の判断に役立てている。 ○全国に同法人の事業所があるが、そこで情報共有や連携を取ることはあるか。 →直接交流することはないが、各事業所で起こった事例を法人で集約しており、それを全事業所で共有する仕組みになっている。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
運営・支援について	7	従業員の確保策（夜間も含めた人材の確保）・離職防止のための取り組み 未経験者は負担が大きくなるよう経験者と業務する。職員の不満や提案などを聞く機会を定期的に設けている。	○人事考課（評価）などはどのように行っているか。 →法人で策定している。 ○人員の定着や確保はどの事業所でも課題ではあるが、何か方策はあるか。 →現時点で開始1年未満ではあるが、離職率はかなり低い。どんなに小さなことでも管理者に報告してもらい、また、それが可能な雰囲気づくりを行っている。報告してもらえれば、問題が発生しても責任の所在をその職員から管理者へ移すことができ、結果、職員の負担が減って、働きやすい職場環境となっているのではないかと思う。 ○責任者が職員を守る体制が整っているため、安心して働ける職場になっていると思う。
	8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業員の質の確保ための取り組み 利用者の小さな変化にも気づくよう、また、報告、連絡、相談を徹底することを指導している。朝夕の申し送りや連絡ノートを活用、ケア会議の実施を行っている。リフト浴の使い方のOJTも行っている。採用ではヘルパー2級や介護実務者研修修了者を積極的に採用している。	○事業所内でのケア会議など充実して課題を検討する取り組みは良いと思う。相談支援専門員との連携や他関係機関との連携をとり、情報共有など積極的に行うようにしてほしい。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
運営・支援について	9	利用者の健康管理方法 生活リズムを崩さないよう支援する。 毎日、決まった時間に血圧・体温測定を行う。 変化があったとき、異変の訴えがあったときは主治医、協力医療機関や訪問看護へ相談する。	○急な体調変動など緊急時の対応など、マニュアル等があり、標準化されているか。 →法人でマニュアルを作成しており、それに則って対応している。 ○利用者の健康診断や予防接種などはどのように対応しているか。 →かかりつけ医に定期的に受診している。予防接種もかかりつけ医や、それが難しければ、事業所側で接種可能な医療機関を探して予約等を行っている。
	10	モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等) セルフプランの利用者はいないため、相談支援専門員が定期的に行う。 グループホームのサービス管理責任者が6か月に行う。	
	11	その他運営の特色や工夫等 (設備面での障害特性等への配慮) バリアフリー 2階はエレベーター設置 浴室には昇降リフトを設置 (運営面での特色等) 精神障がい、知的障がい、身体障がい、強度行動障がい、発達障がい、すべての障がいに対応している。	○利用者で身体障がいの方はどれくらいいるか。 →身体障がいの方は4名いる。 ○障害や疾患に関わらず、すべての障がいに対応している。障がいの違いで、事業所内で対応に困ることはないか。 →障がい種別の違いで対応に困ることはあまりない。利用者同士の相性が合わず対応に困ることはあるが、間に職員が入って話をして、どうしても難しい場合は、県内に同法人の日中型GHがある(今後も増加予定)ため、そちらへの移動も検討しながら対応していく。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12 災害等発生時の対応方法	水害に対しては避難確保計画、火災に対しては消防計画で備え、年2回の避難訓練を行っている。消防訓練は特に管轄消防署に届け出ている。飲料水や非常食等の災害備蓄品を整備している。	○火災や水害に対して防災計画が整備されている。緊急時に短期入所等に地域から受入れの要請等があった場合の想定など検討されているか。 →短期入所の居室が2室あり、受入れ態勢を整えている。基本的に居室が埋まっている場合は受入れが難しいが、災害等の緊急時は、GHの居室に空きがあればそちらを使用する等して、可能な限り受入れを行っていきたい。その際は、受け入れる利用者の状態などの情報を提供してもらえたらと思う。 ○現在短期入所の利用者はどの程度いるのか。 →問い合わせも多くあり、特に女性利用者用居室は月半分ほど埋まっている状態。 ○緊急時の重度の利用者の受け入れ先があるのはとても心強い。今後もそういった相談があった場合は頼りにしたい。
	13 感染症発生時の対応方法	施設内で研修を行っている。発生時は感染症対策のマニュアルに沿って対応している。適時ご家族様や相談員、日中活動先等に必ずご報告を行っている。関係各所へ連絡、報告し、対応している。	○コロナ陽性者が出たときの具体的な対応策はあるか。 →感染症発生時の対応もマニュアル化されているため、それに沿って対応を行う。 ○感染拡大した場合に、ゾーニングなど行うなど利用者隔離などの方法は検討されているか。 →現在ユニットが2つあるため、それを利用してゾーニングを行う等の方法を検討している。
	14 地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	

報告・評価シート

資料1-4

令和5年(2023年)1月30日

障がい者自立支援協議会

【報告日 2022年 10月 8日】

【評価日 2022年 12月 20日】

事業所名 障害者グループホーム ファミリン

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・就労継続支援B型 ・短期入所 ・居宅介護、重度訪問介護
事業所 基本情報	各住居名称、所在地、定員	1.ファミリン（住所：熊本市東区健軍3丁目48-15）定員8人
	短期入所を実施する住居	住居名 ファミリン（1床）併設型・単独型 計 1床
	主たる対象者	身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者・特定なし
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：7人、区分5：1人、区分4：0人 区分3：0人、区分2：0人、区分1以下：0人
	利用者の年齢	60歳以上：0人、50歳代：1人、40歳代：0人、 30歳代：2人、10歳・20歳代：5人
	利用者の状況	利用者：8人 住居内で日中を過ごす利用者：1人 他の日中活動サービス利用者：7人

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
	1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	就労継続支援B型を運営しながら、多くの重症心身障がい者の家族との関係が深くなり、親亡き後の住まいの不安をよく耳にしていたため、非常に必要がある事業だと確信したことから設立に至った。 医療的なケアが必要な利用者の住まいが、現状施設か在宅の2択しかない。どんなに重度でも地域に開かれた場所で暮らしていけることを目標としている。	○親なき後の住まい、施設からの地域移行などを考えるとナーシングホームのような役割を担う場所はまだまだ少なく、非常に重要であると思う。
	2	支援の基本方針	看護師を24時間配置し、医療ケアを受けられるようにすることで、重い障害があっても、地域でその人らしさを大切にし、かつ安心安全に暮らせる住まいを目指す。 現在、人工呼吸器が必要な利用者が4名おり、それに伴う医療的ケアを24時間受けられる体制を整えている。	○他にどのような医療的ケアが必要な利用者があるか。 →胃ろうによる経管栄養が必要な利用者があり、それぞれの必要な回数や量、種類に沿って行っている。朝昼夕眠前の計4回の服薬管理や、熱傷による創部の処置、多くはないが点滴注射薬の投与も行っている。また、短期入所も医療的ケアが必要な利用者を受け入れており、膀胱ろうや人工肛門の利用者へのケアも行っている。 ○短期入所はどのくらい利用があるか →多い月ではほぼ毎日、少ない月でも半分は埋まっている状況
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	主に生活をしていく上で必要な介助を中心に行うが、支援の程度によっては、医師の指示のもと、必要な医療ケアを提供する。GHの看護師は殆ど医療ケアに追われていることが多い。	○重度の方が多く、難しいかもしれないが、日中支援を受ける受動的な生活だけでなく、可能性があればeスポーツや他者との交流など、生きがいを持つような能動的な活動の可能性も検討してもらえたら思う。 →現在、利用者の医療的ケアや訪問診療へ対応等に追われているところもあるため、なかなか難しいところもあるが、利用者の夢や目標を叶えるための支援として、英会話や家庭教師の先生に来てもらうなど、利用者の意見を取り入れた支援を行っている。 ○ケア以外の活動（レクリエーション、自立に向けた取り組み他）について詳しく教えてほしい。 →誕生日会やバーベキュー、お花見などを行っており、今のところ月1のペースでそういった催しができている。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) それぞれ、生活介護や就労継続支援B型に通所しているが、夜間の様子、通所中の身体的精神的状況の情報共有を欠かさず行っている。 通所においては、随時評価を行い、ライフスタイルに合っているか、体調変化に応じて頻度が適切かを観察、報告している。	○障がい者就労以外の楽しみ作り、基幹相談支援センターや相談支援事業所との連携について詳しく教えてほしい。 →当日、前日の体調や精神状態等の細かい情報を看護師が申し送るなど、連携を密に行っている。また、通所先から戻ってきた際も日中の様子を細かく聞き取りを行っている。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
運地 営域 に 開 か れ た	5 地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	(地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) 自治会に加入し、広報(看板など)の協力をしている。 訪問にきている訪問看護ステーションについても、実習生に同行してもらい、事業所や利用者の説明を行うなどの受け入れも積極的に行っている。	○その他の12にも共通するが、災害時は地域とのつながりも必要になるので、地域の防災活動などにも可能な範囲で参加してしてもらえたら思う。 ○行っている地域との交流・実習生の受け入れの具体例や詳細を知りたい。 →自治会で開催する会議へはまだ参加出来ていないが、自治会から協力依頼があった近隣小学校の掲示板への広告掲載などを行った。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	6 障害福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応	(外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) スタッフの個々のスキルに合わせて研修を勧めたり、スタッフの学びたいスキルの希望を募り、研修計画を立てている。	○入所者に対する研修例と1年間で受けた資格や研修について具体例を教えてください。 →腰痛予防にボディメカニクスの研修も検討している。また、人工呼吸器の取扱い方は難しいため、触れたのことはない職員向けに機器のメーカーの方に来てもらって、使い方の研修会を過去4回程行っている。 また、新規職員が増えた際は研修の内容や頻度を変えて、状況に合わせた研修を行っている。
	7 従業者の確保策(夜間も含めた人材の確保)・離職防止のための取り組み	必要のないルールを撤廃し、個々の働き方を可能な限り工夫している。定期的に面談し、困っていることや体調、家庭の事情、悩み等を寄り添って聞くようにしている。 常に利用者の利益になることを考え、課題に対しアイデアを以て解決するように発言の機会を多く設けている。	○撤廃した「必要のないルール」には、どういったものがあるか具体例を教えてください。 →例えば、服装や髪型などは、利用者の支援に支障がなければ制限をしないなど。子育て世代の女性が働きやすい職場をめざし、フレックスタイムの導入や勤務時間、休日の考慮もしている。 ○夜間の職員対応(喀痰吸引など)はどんな状態か。 →看護師1名と介護士1名で対応しており、音などを確認して適宜喀痰吸引を行っている。基本的に利用者は眠っているため、積極的な医療的ケアが必要なことはあまりないが、緊急時には看護師が対応する形になっている。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保ための取り組み	<p>看護師に関しては、高度医療の中でも在宅での取り扱い方を中心に勉強し、指導に努めている。特に疾患に伴うリスクの共有を看護介護で行うことで、事故発生を未然に防ぐようにしている。疾患に伴う機能障害と、廃用、高齢に伴う機能低下などの評価を欠かさず行い、それに対する介護技術の習得を目指している。</p> <p>重度の方への支援の困難さを感じている。GHは生活の場であり、医療的な面だけに特化してしまうのは避けたいと考えており、利用者がこの先長く暮らしていく中で、本人の状況や望んでいる生活をしっかり理解したうえで、支援をしていく必要性を感じている。</p> <p>また、難病に関する知識などの勉強や情報共有にも力を入れている。</p>	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】	
		具体的な内容	要望, 助言, 評価	
運営・支援について	9	利用者の健康管理方法	障がい程度に合わせて変わるが、最低でも一日一検はバイタルチェックを行い、体調変化がないか観察に努めている。それぞれの主治医と連携し、メディカルケアステーションなどのクラウドを利用して密に連絡を取り合い、常に情報共有、相談、指示を仰いでいる。 訪問診療の医師が2週間に1回来ているため、連携や相談が取りやすい環境。	
	10	モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等)	定期的に相談支援との面談やカンファレンスを行い、現在の生活評価やサービスと状態の整合性を評価し、見直しを図っている。	○相談支援専門員全般に言える事だが、医療的な知識が不足していると感じているので引き続き、連携をお願いしたい。 →コロナの影響で関係者一堂に会しての話し合いは出来ていないが、個々のやり取りは密に行っている。今後も、自分たちから見た利用者の状況等を、会話を重ねたうえで相談支援へ報告する、ということを行っていく。
	11	その他運営の特色や工夫等	(設備面での障害特性等への配慮) 車椅子ユーザーや歩行に困難があり転倒リスクの高い利用者しかいないため、施設設備はバリアフリーであり、場所はわかりやすく表示し、観察がしやすいよう常に見渡せる空間にしている。 GHの建物は以前小規模多機能事業所が使用しており、設備が整っていたため、浴室を特殊浴と個浴が可能なように手を加えた。	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
		<p>(運営面での特色等) コミュニケーション困難な方に対し、どのように円滑にコミュニケーションを図ることができるかを協議し、スタッフ間で共有して統一したケアを行うようにしている。</p>	<p>○利用者にとっての最善の利益は最終手段なので、引き続き利用者とのコミュニケーション手段の検討を続けて頂ければと思う。また、第三者を入れることも権利擁護の支援からは必要かと思う。 →脳性まひ等でコミュニケーションが困難な利用者についても、長く支援をしてきてイエス/ノーの反応が分かるようになってきている。そういった情報も家族へ確認を取りながら職員間で共有している。視線入力も難しい方がいるので、今後もコミュニケーションを取る努力を続けていく。 ○家族との連携はどのようにとっているか →家族との連絡を密に取り合っている。利用者に若い人が比較的多く、親も積極的に事業所へ会いに来る人が多い。今後の生活に向け、親離れ・子離れの手伝いも一緒にしながら、利用者とのコミュニケーション方法等について情報連携を行っている。</p>

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12 災害等発生時の対応方法	呼吸器対応の方は命にかかわってくるため、バックベッドが機能するか事前に確認し、最低1~2日間は自施設で過ごせるよう備蓄している。火災発生に対しては年2回の消防避難訓練を消防士の指導の元徹底して行っている。 消防訓練は、GHの出入り口が1か所のため、出入り口付近で火災が起こった場合など様々なケースを想定して訓練を行っている。	
	13 感染症発生時の対応方法	重度化しやすい利用者はバックベッドの利用（入院）を検討し、その他はスタンダードプリコーションにて感染対策を徹底して行う。 消毒液は感染源によって変え、感染経路によって予防法も変えている。 コロナだけでなく、インフルエンザや感染性胃腸炎などそれぞれに対応した予防策を講じて、職員へ周知・指導している。	
	14 地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	
	その他	当事業所には待機者が5名ほどおり、そういった方を受け入れる場所として日中サービス支援型GHが地域が増えてほしいと考えている。もし今後、日中サービス支援型GHを開始したいと考えている事業者がいれば、1年間積み上げてきたノウハウ等をお話出来ると思うので、そういった方がいればぜひ紹介してもらえたらと思う。	○相談支援センターとして、地域と関わる仕事をしており、もし地域に関する要望や研修依頼等があれば聞きたい。 →身寄りのない利用者もいるため、成年後見制度等の利用者の権利擁護についての研修などをしていただければお願いしたい。 ぜひ内部でも具体的に話を進めていきたいと思う。GHの介護・医療的な視点と、社会福祉の視点の両方を掛け合わせたらとても良い研修になると思う。 ○今回の報告で支援へのつよい意気を感じた。今後も、できる支援ではなく、利用者の希望する支援をしていけるような地域づくりを、一緒に協力してやっていけたらと思う。